

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370301570		
法人名	旭日産業株式会社		
事業所名	グループホームあさひ名北		
所在地	愛知県名古屋北区安井一丁目26-14		
自己評価作成日	平成22年11月18日	評価結果市町村受理日	平成23年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・終末期(看取りケア)の実施 当ホームでは開設時より終末期ケアを実施しており何名かの看取りケアを実施しています。その為に外部の研修会などに積極的に参加し看取りケアを充分に対応すべくスタッフがスキルを身につけるよう努めています。またホームの運営理念である「明るく 楽しく 感動的に」を実施すべく当ホームのスタッフは明るく、仕事を楽しくしている、と思います。スタッフが仕事に対し楽しめない利用者に対し笑顔が出せない、スタッフ同士、チームワークがないといいケアが出来ないからだ、と認識しているからです。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは地域と密接な関係にあり、自治会長の協力もあり相互に交流しており、ホームが目指していることや取り組んでいることを明確にしている。入居者の希望をふまえながら楽しい雰囲気をつくり、精神的安らぎのある生活を送ってもらえるよう努めている。そして、慣れ親しんでいるホームで、信頼関係のある職員と共に安心して暮らしてもらいたいという思いを大切に、ターミナルケアについては、職員の想いと家族の協力、そして職員を支えるホームドクターの協力があり、すでに何名かの看取りの経験がある。どれか一つでも欠けると大変難しいことであるが、今後できる限り対応していきたいと考えている。職員間は良好な関係であり、入居者とも家族のように和気あいあいと過ごしている。アットホームな雰囲気のもと、職員は些細な事も見逃さないよう「明るく、楽しく、感動的に」という理念を実践している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ケア・ウィル		
所在地	愛知県名古屋市中村区椿町21-2 第2本館ビルディング9階		
訪問調査日	平成22年12月7日	評価確定日	平成23年1月11日

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>運営理念は明るく、楽しく感動的にてある。運営理念を記述した用紙は職員は常に目に出来るよう努めている。それにより職員は常に自己のケアを振り返れるように工夫している。トイレ・廊下に貼ってある。</p>	<p>「明るく、楽しく、感動的に」を理念とし、常に職員の目に留まるよう数カ所に掲示している。日々入居者と共に楽しく過ごせることが一番であり、「感動的に」は生活の中で目にした物等、五感で感じてもらうことが「感動」につながると考えている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域で行う祭事(祭り・掃除等)は入居者と参加し交流を図っている。又ホームの催事があれば告知し交流を図っている。日々の散歩では挨拶を励行し近隣住民との交流に努めている</p>	<p>自治会に入会しており、地域の情報は回覧板で得て、ホームの行事は掲示板、会報を通して「お知らせ」を流し、町内の清掃や祭り等に参加している。近所からの招待で、保育園児とフルーツ狩りをしたり、秋祭りには子ども獅子がホームに来てくれたりする。また、玄関は常時鍵が開いていて近所の子どもの達が気軽に遊びに来てくれる。町内の会議の場所の提供も行っている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>運営推進会議には自治会長・民生委員・ホームドクター・利用者家族が出席しており色々な情報交換を行い共有している。又掲示板を利用しホームにて消防署の協力を得て救命講習を行い、地域住民に参加して頂いている</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議で取り上げられた内容はホームの全体会議で取り上げ問題点は職員が皆で話し合いケア・サービスの向上に努めている</p>	<p>メンバーはホームドクター、民生委員、自治会長、地域包括支援センター職員、家族代表となっており、2カ月に1回開催されている。入居者の様子や行事の報告をしており、グループホームに関する新聞記事について、意見交換する時もある。家族の意見は全体会議で検討され、次の推進会議で結果が報告される。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>生活保護者の受け入れを行っており区の福祉担当とのつながりがあり情報が入手しやすい。地域包括支援センターの方の意見を取り入れている</p>	<p>毎回、名北便りを届けたり、空き状況を伝えたりしている。また、自立支援協議会のイベントに参加している。区の保護課の担当者に推進会議への出席等ホームへの訪問をお願いしているが実現には至っていない。</p>	
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関の施錠は行っていない。又、身体拘束の禁止事項を掲示し職員がおのおの理解している</p>	<p>玄関は何時でも解錠しており、入居者は自由に出入りできる。2階は離設される方がいることから現在入口を施錠している。拘束の禁止事項を掲示し、職員一人ひとりが理解をし、拘束のないケアの実践に努めている。出て行かれる方については気配を察知し、職員がさりげなく後からついて見守りを行っている。</p>	<p>今後も継続的に離設の原因分析や対処方法などについて職員間で話し合い、取り組んでいくことを期待したい。</p>
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>社外の研修会に参加したスタッフがケアカンファレンス等や全体会議の場で発表しスタッフ個々が理解するよう努めている</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	NPO法人が後見人になっている入居者がいる為、ホームと後見人が話し合い、必要に応じたケアサービスを提供するよう努めている。月一回の来設にて状況報告を行っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は疑問点があれば納得出来るまで十分に説明を行うよう努めている又、家族が話しやすいような雰囲気作りに努めている。疑問があれば電話での対応にも努めている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族の意見・要望は会議やカンファレンス等で検討する。それらをホームの運営・日々のケアサービスに導入している	随時のこまめな連絡、家族等の来訪時に入居者の近況報告や日々の様子を伝えている。何でも話しやすい雰囲気づくりに努力している。意見箱を設置しているが、意見要望はほとんどない。家族会はないがホームの行事への呼びかけで家族同士の交流に心がけている。	家族アンケートでは感謝の言葉が多く寄せられている。意見や要望等も含め家族へ報告することで、より理解や協力が得られることを期待したい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に最低、一回ホームで全体会議やカンファレンスを行い、スタッフ一人ひとりが意見や提案を話せる場を設けている。又問題点・疑問点があればいつでも気さくに話せる環境であると思う	管理者はどんな些細な事にも耳を傾け、その場で解決できない時は職員と話し合える時間を取っている。資格取得については、応援を惜しまない環境づくりを行っている。介護福祉士、ケアマネジャーの資格を取得した職員もいる。また、月に1回はホーム全体会議を開催し、職員一人ひとりが意見や要望を話せる場を設けている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部の研修会に参加しスタッフのスキルをアップさせそれを実践に活かし仕事の楽しさ・又やりがいを持って頂く様心がけている。介護福祉士などの受験資格をとれる様に職員に受験を促す		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	正職員・パート職員の区別なく個々の力量に応じた研修に参加をしている。又、日常業務の中でも指導を行っている。ただ職員は研修で学んだ事は実践でもっと積極的にケアに取り入れると共に全体会議にて指導している		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・職員とも研修や勉強会を通じて同業者と交流する機会を作っている。情報交換をしケアサービスの質を向上させているとは思いますが今後は相互に訪問の機会もあればいいと思う東西グループホーム協議会が発足があり力量に応じて研修に参加している		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化により利用者様は不安感が増すのでまずは面接シートにて情報を入手し声掛け・会話する機会を設け要望・不安感に対し傾聴する。出来るだけ一人にする事を少なくし会話を多く持つようにする		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族には職員から話しかけるようにしご家族が安心できるように必要に応じて連絡・報告を行っている。又ご家族からの要望等を話しやすい環境作りをしている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在、必要としているサービスの確保と共にインフォーマルなサービスの活用も取り入れている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者様が共にお茶を飲んだり利用者様の出来る家事等スタッフと共にに行い介護するだけでなく助けて頂いているという関係・そして共に共感しあえるような関係を築いている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には多くの情報を提供しよう心がけている。ご家族来施時には出来るだけゆっくりして頂きご本人と会話しご本人の状況を見て頂く。又施設の方からも近況報告している		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の来設した際は居室でゆっくりして頂き再度着ていただくよう声掛けする。馴染みの物を持参して頂き居室に置いている。又、施設の行事には家族や顔なじみの方に来て頂いている。.	入居者は遠方の方が多く、馴染み人や店は無いが、少しずつではあるが、近くの喫茶店やコンビニエンスストア、薬局へ買い物に行き馴染みができつつある。本人の希望から、知人の家や住んでいた家に行った事もある。ホームの行事には、知人や家族の方に来ていただき継続的な交流を支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事・おやつ・お茶の時間には利用者様、スタッフと共に楽しく会話をしている。又声掛けなくてもフロアに一人二人集まり話している。いさかいが起きそうな時にはスタッフが取り持つようにしている。家事も複数のスタッフで行う事が多い		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームで終末期を過ごし亡くなる方やその家族とは関係が薄くなると思う。終末期には家族へのフォローも忘れず実践していると思う。他の施設へ移られた場合・相談等に応じているホームの催事や旅行の参加声掛けをしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の訴えに傾聴し日常の会話の中からもその方の思いを引き出すよう対応している。興味のあること・出来る事に参加してもらいメリ・ハリのある生活を送れる様に接している。	生活歴を参考に入居者とコミュニケーションを取り、言動や表情から希望や意向をくみ取り、入居者の意思を尊重している。意思表示の困難な方には、声かけや行動から把握し、希望や要望を叶えられるよう努めている。ホームの行事には入居者が浴衣を着たり、マニキュア等をしたりと洒落にも気配りしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の面接シートでの確認を行っている。又必要に応じ、ご家族来設時に聞き取りをしている。全体的に生活歴の情報が少ないように思われる入所時に聞き取りするも許可されないと思い詳しく話されない方が多いため		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	昼夜の過ごし方を申し送りや連絡ノートにて把握している。一日、二回のバイタルチェックと排泄チェック、水分チェック、食事量チェックをし心身状態の把握に努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に介護計画を立てモニタリングを実践している。又、状況の変化に応じカンファレンスを行いそれに合ったケアが出来るよう努めている。家族の意向も取り入れそのように努める	計画は本人、家族の意向や日々の記録を基に、担当職員をはじめ職員、ホーム長、ケアマネジャーが参加して会議を開き、計画の立案、見直しを行なっている。介護計画は個人記録に反映され、日々のケアで実行されている。現状に沿った計画となるよう少しの変化も見落としがないよう努めている。家族には郵送し確認をお願いしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテ・経過表・連絡ノート・申し送り等を利用して情報を共有している。時々書き忘れや申し送りでのがれがある為、注意していきたい		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院・リハビリの付き添い・マッサージ等の取り組みをしている		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な訪問理美容、地域の喫茶店の利用・自治会の掃除への参加 桜ウォーキングの参加・歯科・眼科・整形外科への通院等行っている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の週一回の往診・必要に応じて他の病院への情報提供書も書いて頂いている。急変時はいつでも往診して下さり主治医との信頼関係も築かれている	入居時にかかりつけ医について入居者、家族に希望を聞いている。ホームドクターの場合は、毎週木曜日に往診がある。24時間対応が可能であり、施設長が看護師であることから連携が密にとれている。眼科医、歯科医へは職員が送迎しており、状況に応じて歯科医の往診もある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長が看護師なので職員との連携は取れている。一日2回のバイタル測定、入浴時の身体観察をしている。又、必要であればかかりつけ医に往診を頼んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリー又はカルテ・情報提供書を持参し説明を行っている。又、定期的に入院中の様子を観にいき病院側から説明を受け家人に連絡している。医療機関とは情報交換できている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期についてのケアはドクターと管理者が家族と話し合い説明している。早期に家人に確認を行いそれに見合ったケアを行っている。本人・家人の意見を尊重している。	入居時に入居者、家族へ重度化、終末期についての希望等を確認しており、ホームでは24時間医療が必要な場合には医療行為を行なえないことを明文化して説明している。ホームドクターの協力や指導のもと、家族、管理者、職員で話し合いを重ね、互いに納得できるよう体制を整えている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力の下救命救急講習を行っている。急変時にはかかりつけ医に連絡し指示を仰ぐ。実際に経験し蘇生させたスタッフもいる。マニュアルも分かり易い所に貼ってある。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急マニュアルを作成し目に付く所に掲示をしているがこれからは職員・利用者を変えた避難訓練を定期的実施したい。かかりつけ医・自治会長との連絡もとれている。非常食の備蓄も出来ている	年2回の避難訓練を入居者と職員が一緒に行い、昼間・夜間を想定した訓練を消防署の立会いのもと実施している。緊急時の対策として職員は救命救急の講習を受けている。災害時に備え3日分の食料等備蓄品を準備しており、ホームドクターや自治会長との連携も図られている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの居室なのでプライバシーは保たれている。利用者一人ひとりの情報を把握しその人に合った対応をしている。(生活習慣・趣味等)それぞれのスタッフは言葉かけにも注意しているが忙しい時、気が付かない内に利用者の気分を害しているかもしれない	職員は入居者一人ひとりの状況や性格を把握し、それぞれにあった対応で、尊厳を守るよう努力している。居室に入る時や排泄介助、入浴介助時等の声かけはプライバシーや羞恥心への配慮を念頭に置いて、言葉かけや対応をしている。	自己評価にもあるように日々意識はしていますが、日常生活の中で守ることが難しい状況が出てくる可能性もあることから、今後も継続してより一層注力していくことを期待したい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	訴えに傾聴し自己決定できるよう働きかけている。スタッフの時間的余裕がない時は決めてしまう事もあるので気をつけたい		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	37と同じになるが時間的余裕・職員が少ない時等は希望どおりに行かない場合もあるが大体は沿うように対応している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容がある。髪の毛の乱れ・服装の乱れに気を付けている。洗顔の声掛け・又は介助もしている。外出・行事の時はゆかたを着用したり化粧をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々にランチョンマット・お膳を使用している。音楽を聴きながらゆったり食事をする。米とぎや野菜切り・食器洗い・食器拭きを複数の利用者と職員で行っている。献立に利用者の希望を取り入れる。食菜の色も気をつけている	ランチョンマットやお盆を食事の時に使用し、茶碗、湯のみ、箸、マグカップ等は個人の物を使用していることから家庭的な雰囲気を出している。献立は日々のケアの中で職員が入居者から希望を聞き、メニューに取り入れている。廊下のホワイトボードに今日の献立と大きく書かれ、楽しみの一つとなっている。食事中は演歌やジャズなどが流れ、ゆったりとした雰囲気の中で食事をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カルテに一日の食事・水分摂取量を記載している。十五時に水分チェックを行い少ない方には補給して頂く。不足の方に関してはお茶だけでな、くコーヒーマグ・ポカリ等も使用し補っている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後・口腔ケアをして頂く。また義歯の方は取り除き洗って頂き口腔内も洗って頂く。夜間は洗剤に漬けて置く。ご自分で出来ない場合はイソジン等で口腔内に拭き取り残渣物がないようにしている。舌の洗浄にも気をつけている		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し個々の排泄パターンを把握し誘導を行っている。ADL低下防止の為、ご自分で出来る事はして頂いている。出来るだけリハビリやパットに頼らないように心がけている	入居者個々の排泄の時間、パターンを職員が把握しており、排泄の誘導を行なっている。また、排泄チェック表も作成している。本人の普段の仕草や行動パターンにおける排泄のタイミングを観察し、身体の低下防止のため、自分で行なうことは行なってもらえるよう支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前の牛乳の飲用・せいい質の野菜を多く摂取して頂いている。場合によっては主治医に相談し内服での対応も行っている。毎日散歩に行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に隔日で入浴を行っているが拒否があれば無理強いせず日付けを変えるなど柔軟な対応をしている。一人入浴なので時間をきせず入浴できるようにしている。	基本の入浴日は隔日だが、拒否された場合は無理強いせず、時間をずらしたり、日にちを変えたり、担当者を変えたりして入浴してもらっている。一人ずつ入浴時間は違うがゆっくり入ってもらっている。毎日、海の色や柚子等の入浴剤、季節ごとに菖蒲湯、柚子湯などで楽しんでもらっている。また、機械浴の設備もあり重度化した場合にも対応できる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の温度調節・寝具等に気を使っている。昼夜逆転にならないよう適度の昼寝をしている利用者もいる。本人の意思で休息は自由に行っている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用・副作用 増減等連絡ノートに明記されている。またスタッフも把握している。夜勤者が翌日の薬をセットし一日の服薬担当者が利用者が服薬するまで確認している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごすように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	庭で野菜作りや花を育てている。一緒に収穫し楽しんでいる。個々に応じた仕事を利用者・職員と一緒にやる。散歩も必要な時2回でも3回でも行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雨の日以外の散歩・週一回外出日があり喫茶店・買い物に行く。外に出たい、と言われてスタッフが付き添う事もある。美容院に行ったり本人の希望に応じている。	雨の日以外を除き、毎週水曜日が外出の日であり、喫茶店、うどん屋、どんぶり屋などに出かけている。それ以外にも希望があれば買い物や美容室など個々に合わせて外出の支援をしている。日帰り旅行や泊まりでの温泉旅行では温泉を貸し切って楽しんでいる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人で管理している方もいるが殆どが施設管理である。必要に応じて使う事はできるようにしてある		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら電話したり手紙は書かないが年賀状は書ける利用者には書いて頂いている。ご家族からの電話には出て頂いたり手紙が来ると読んで頂く。困難な場合は代読する		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の野菜作り(家庭菜園)をしといる。玄関には花を飾り季節感を味わって頂く。利用者スタッフと朝、掃除を行う。手作りカレンダーや行事の写真等で季節感が出るようにしている	リビングは日当たりも良く、窓を開けると家庭菜園の畑があり、洗濯物もすぐに干せるようになっている。入居者と職員と一緒に玄関の掃除をしたり、プランターで花を育てている。クリスマスの季節にはサンタクロースの飾り物や入居者が職員と一緒に作った大きな張り絵も飾られており、季節感があふれていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自然と自分の座る場所が決まっている。利用者同士の話をする声も聞こえている。フロアで思い思いに過ごされている		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物(馴染みの物)を持参して使用している。写真や飾り物	居室にはベッドだけでなく、入居者の希望に添って畳やこたつ、カーペットなどを取り入れ、個々の昔から使っていたタンスや机、イス、仏壇、冷蔵庫、テレビなどもそのまま使用しており、その人らしい居室となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアに大きく名前が貼ってある。トイレも判りやすく掲示してある。事故防止の為、廊下に余分な物は置かないようにしてある。車椅子の点検・掃除を行うようにしている。洗面台の掃除・フロアは出来るだけ習慣づけてやれるようにしている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	
法人名	
事業所名	
所在地	
自己評価作成日	評価結果市町村受理日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>終末期ケア(看取り)の実施。春の一泊旅行・秋の日帰り旅行の実施。敬老会の催事にジャズ歌手を招いての演奏会。地域との交流(催事に参加・また参加して頂いている。)</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は 明るく、楽しく、感動的にである。運営理念を記述した用紙は職員トイレ等に貼り職員は常に目に出来るよう努めている。それにより職員は常に自己のケアを振り返れるように工夫している		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行う祭事(祭り・掃除等)は入居者と参加し交流を図っている。又ホームの催事があれば告知し交流を図っている。日々の散歩では挨拶を励行し近隣住民との交流に努めている		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議には自治会長・民生委員・ホームドクター・利用者家族が出席しており色々な情報交換を行い共有している。又ホームにて消防署の協力を得て救命講習を行い、地域住民に参加して頂いている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り上げられた内容はホームの全体会議で取り上げ問題点は職員が皆で話し合いケア・サービスの向上に努めている		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護者の受け入れを行っており区の福祉担当との繋がりがあり情報が入りやすい		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行っていないがフロアの入り口はエスケープの危険がある為、やむを得ず施錠をする場合がある。又身体拘束の禁止事項を掲示し職員がおのおの理解している		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社外の研修会に参加し参加したスタッフが全体会議の場で発表しスタッフ個々が理解するよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学んでいるスタッフもいるが全てのスタッフが理解しているとは言えない		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設の責任者 管理者が充分説明し理解していただいていると思う		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族の意見や要望を会議やカンファレンス等で検討しホームの運営、ケアサービスに導入している。又家族来設時、意見・要望を言っていただけるような雰囲気作りをしている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に最低一回、ホームで全体会議を行いスタッフ一人ひとりが意見や提案を話せる場を設けているまた問題点があればいつでも話せる環境下である		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部の研修会参加し職員の能力を高め実践に生かす事により楽しさ、やりがいを持って頂く様心がけている。介護福祉士などの受験資格を持った職員に受験を促し資格取得の為		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	正職員・パート職員の区別なく力量に応じた研修に参加をしている。又、日常業務の中でも指導している。研修で学んだ事を職員は実践すべきだと思う		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・職員とも研修・勉強会を通じて同業者と交流する機会を作っている。情報交換をしてサービスの質を向上させていると思うが今後相互訪問の機会も作れば、と思う		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族より情報収集をし共通の話題を見つけリラックスしていただくよう話をする。環境の変化により利用者様は不安が増すのでお声を掛け会話をし安心していただくよう努める		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりにも努めている	ホーム側からコミュニケーションを図り出来るだけ家族が困った事や希望・要望を話せるように和やかな雰囲気を出すよう心がけ又努めている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日々の生活を記録に残しスタッフ間でカンファレンスし対応している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の 出来ること、出来ないこと を見極め出来ることは役割を持って頂き、共生していくような関係作りに努めている(主に米とぎ・野菜切り・料理の盛り付け等)		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には居室にてご本人とゆっくりお茶を飲んで頂きお話をしして頂く。スタッフは面会時に最近の状況を報告し要望を聞くようにしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの物を持参して頂き居室に置いてある。来設時には名簿に記入して頂き疎遠にならないようまた施設に来て頂くよう一言付け加える。施設の催事に出席して頂くよう声掛けしている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中でスタッフが声掛けしなくてもフロアに集まって下さる。一緒に食事したりテレビを観てお茶を飲んだりしている。トラブルが起きそうな時はスタッフが取り一人でも利用者がいないと「どうしたのかね」と他の利用者が心配する		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設で終末期を迎えられる利用者が多い。その後は家族と関係性がなくなる事が殆どである。ご家族のフォローも忘れないように努めている。		
、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の要望を傾聴し日常会話の中からもその思いを引き出すよう努力している。又、申し送りや個別カルテからも思いを引き出し本人本位のケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接シート、ご家族の聞き取りにて把握に努めるがなかなか、個人の暮らしの尊重は困難である。一つでも実現してあげる事を努力している		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや連絡ノート、個別カルテを用いて利用者の心身状態を把握出来るよう努めている。一日2回のバイタル・チェックを行い心身の状態観察を行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に介護計画を見直しモニタリングを実施している。計画見直し時はスタッフ・ナースとカンファレンスを行い家族とも話し合いの場を持っている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で 気づき 等は申し送りや連絡ノートを用い情報を共有出来るよう努めている。不穏時や大きな変化があった場合は専用の用紙に書き込み今後の参考にしてている。たまに書き忘れや言い忘れがあるので注意をしたい。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リハビリの取り組み 通院の付き添い 喫茶店への同行等をしている。又、ご本人の希望される事をご家族に話し返答をもらう		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域への行事への参加 喫茶店、理髪店の利用、大家さん宅での果物狩りなどを通じて利用者は地域の一員だと思われている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は隔週一回、かかりつけ医の往診を受けている。又、本人や看護師・スタッフ等が希望すれば随時受診・往診を受けられるような体制をとり関係を築けるよう支援している		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム長が看護師な為、スタッフとの連携はとれている。一日2回バイタル測定をして身体観察を行っている。特変があった場合は速やかに報告対応が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時にはサマリー又はカルテ、情報提供書を持参し説明を行っている。又定期的に入院中の様子を観、病院側から説明を受け家人に連絡している</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてのことを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時に終末期についての方針を家族に文章と口頭で説明している。また実際終末期を迎える際かかりつけ医・家族・ホームで相談し方針を決めケアに当たっている</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時対応マニュアルを元に対応し行動している消火訓練も年2回実施(初期消火・通報・誘導)している。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年間昼夜一回ずつの定期訓練を実施し緊急マニュアルを作成しているがいざ発生時落ち着いて対応できるか、と心配の声もある。利用者も交えた訓練が必要だと思う。</p>		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	<p>一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>一人ひとりの居室なのでプライバシーの確保は出来てと思う。年上だという事への尊厳を忘れないよう努める。スタッフの人数が少なくなると会話が少なくなり不穩になってしまう事もあるので気をつける。</p>		
37		<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>レクリエーションや談話を通じ本人の思いや希望を表出しやすい雰囲気作りを心がけている。ただ会話をしない利用者への声掛けが少なくなってきたので気をつける。</p>		
38		<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>起床・入床 食事時間の開始等は利用者本位を尊重し個々のペースにあわせた暮らしと環境を提供するよう努めている。ただ全ての事に関して一人ひとりのペースに合わせる事は難しいが努力していきたいと思う。</p>		
39		<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>個々で整容が出来る人は本人に委ね介助が必要な人は状況に応じて対応・支援している。二ヶ月に一回訪問理美容がある。入浴日には自分の好きな服を選んで頂く。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の作成 盛り付け 配膳と一緒に参加して頂く事により(個々の得意な事を発揮できる場を提供する事により)食事を楽しみの場として提供している。共にやっていた事に感謝し又その気持ちを入居者に伝えている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日のある時間に水分チェックを行い水分が不足している人は個人の好きな飲み物を提供し水分確保に努めている。又申し送りも行い皆で支援している。食事は一人ひとりに合った状態で提供している。(キザミ・かゆ食等)		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実践し口の中に残渣物が残らないように努めている。自己で満足な口腔洗浄が出来ない人に対し介助している		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別カルテや排泄チェック表を用い記録する事により排泄パターンを把握しなるべく排泄の失敗がないよう努めている。同時に安易にリハビリパンツや尿取りパットに移行しないよう心がける。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床後、朝一番の牛乳の提供や毎日の日課である散歩の励行によって便秘がないように努めている 毎日、午後に体操も行っている。食事の面では根菜を多く摂る事を心がけている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は基本的には決めているが本人の意思を第一に優先している。曜日や時間帯の変更も利用者本位で行っている。浴槽はADLの低下にともなり手すり等の設置等見直しも必要と思われる。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間は本人本位に委ね又、居室やフロアでの休憩時間も本人に任せ個々に沿った支援をしている 空調の調整や寝具にも気を配っている。日中適度な運動や作業をして頂き安眠できるよう配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が利用者の使用している薬の目的や副作用を連絡ノートに記述する為、理解している。それによって症状の変化も理解できる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日の流れの中で一人ひとりの役割が築かれておりスタッフと共に楽しみながら行っている。又、利用者・スタッフと唄を歌ったり貼り絵によるカレンダー作りをして頂いている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段は行けない場所を希望した場合は事前に家族に連絡をし時間や日程を調整してなるべく希望に沿えられるよう努めている年に一回の泊旅行や日帰り旅行・週に一回の外出で喫茶店や外食に行く。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を管理出来る人は任せている。又、お金を使いたい時はスタッフが同行し本人が欲しい物が買えるよう支援を行っている。ただ使える機会はあまりないです。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状をご家族に出している。困難な方には職員が代筆している。ご家族への電話のやりとりは自由だが困難な場合は職員が替わって電話する		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝スタッフと利用者様でフロア・廊下を掃除し清潔を保っている。毎月フロアに飾るカレンダーを利用者様に作って頂いたり季節の壁掛けを作ったりしている。男女共用なのでいさかいの起こる事もあるがスタッフが仲を取り持つようになっている		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では一人になる事もないが居室で自由にテレビを観たり読書をしている。フロアでは利用者同士の話し声がいつも聞こえてくる。問題のある時は(利用者同士)机の配置イスの配置を換えて対応している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや家具等持ってきて使っていただいている。畳を希望される方は使用していただいている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレには利用者同士が理解できるよう張り紙をしてある。安全に生活できるよう廊下には不要な物は置かない。一部の利用者には居室点検を行っている。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホームあさひ名北

作成日: 平成23年1月11日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなると、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	現在、当ホームでは最低、年二回防災訓練を励行しているが開設して6年、今まで一度も地域(町内会)の方に参加して頂いていないので今年参加して頂けるように働きかけたい	地域(町内会)の住民と協働しての防災訓練を最低年一回は行う	町内会の回覧板、施設の掲示版・町内会長にその旨を伝えできるだけ多くの方に興味を持って頂き、また参加して頂けるよう励行する	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月
6					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。